

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：25301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23520310

研究課題名(和文) マーガレット・アトウッドのグローバル・ヴィジョン - サバイバル・地球環境・未来 -

研究課題名(英文) Margaret Atwood's Global Vision: Survival, Earth Environment, and Future

## 研究代表者

松田 雅子 (Matsuda, Masako)

岡山県立大学・情報工学部・教授

研究者番号：90249665

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：カナダ文学の旗手であるマーガレット・アトウッドの作品世界を、長編小説、短編小説、詩、カナダの文学思潮の4つの側面から解明した。研究代表者は長編小説を担当し、分担者の中島恵子は短編小説を中心に研究を進め、それぞれ、博士論文をまとめた。研究分担者の西村美保は、アトウッド文学におけるイギリスの影響、とくにヴィクトリアニズムの展開についてまとめた。研究分担者の、ミシェル・ルールはアトウッドの詩および子ども向けの本の関係について考察した。3冊の書籍、3冊の翻訳書、7編の論文を出版し、学会発表を8回行った。

研究成果の概要(英文)：Margaret Atwood is one of the most prominent Canadian authors. The purpose of this research is to clarify characteristics of her literary world by analyzing long novels, short stories, poetry, and social trends which have influenced her work. Matsuda wrote essays about her long novels; Nakashima, about short stories; Nishimura, poetry; and Ruhl, social trends. As a result of our research, we wrote two doctoral theses, three publications as a book, three translations, seven essays in journals of literary societies, and gave eight presentations in conventions.

研究分野：英語圏文学

 キーワード：カナダ文学 英語圏文学 マーガレット・アトウッド アトウッドの長編小説 アトウッドの短編小説  
アトウッドの詩

### 1. 研究開始当初の背景

マーガレット・アトウッド(Margaret Atwood, 1939-)は、カナダ国内のみならずヨーロッパなどでも数々の文学賞を受賞し、これまで詩集を含めて60冊以上の本を出版している現代カナダを代表する作家の一人である。近年、アトウッドの作品の日本語への翻訳は進んできているが、日本で研究論文の発表は充分ではなく、アトウッド文学研究は緒に付いたばかりであるといえる。

### 2. 研究の目的

詩、小説、評論、児童書など広範囲なジャンルで作品を発表し、長年にわたり広大な文学世界を築き上げてきたアトウッド文学のテーマや技法を明らかにし、その特色の解明を研究の目的とする。

### 3. 研究の方法

アトウッドの作品を長編小説、短編小説、詩と子供のための文学、影響を与えた文学思潮に分け、共同研究者4名で分担し、調査研究を行う。トロント大学を中心に、カナダ文学研究者と連携を深め、さらに作家自身にインタビューを行い、問題意識を深化させ、疑問点を明らかにする。研究を論文、著書、翻訳書の形にまとめ発表し、さらに、学会発表を行う。

### 4. 研究成果

2011年、研究代表者と共同研究者4名の合同の研究会を開き、次年度の在学研究の準備のための話し合いを行った。周到な準備を重ねた上で、2012年、研究チーム全員が参加したカナダへの在外研究は研究の重要な出発点となった。トロント在住のアトウッド氏自身にインタビューする機会を得て、それぞれの担当分野で多くの示唆に富む助言を受け、研究基盤を強化することができたからである。さらに、トロント大学のカナダ文学教授、ジョン・オコーナー氏、ロバート・マックギル氏、メルバ・カーディキーン氏、ニック・マウント氏とのインタビューを行い、カナダ文学およびアトウッドの文学について、意見交換と交流を行い、貴重なコメントをいただいた。

また、トロント大学付属の Thomas Fisher Rare Book Library におけるアトウッドコレクション『アトウッド・ペーパーズ』を調査し、作品のマニュスクリプト、著者のイラストレーション、その他の資料を閲覧した。トロント大学のメディア・ライブラリーでは、『またの名をグレイス』のテレビ用ドラマや、アトウッドについてのドキュメンタリー映画を視聴し、作品理解をさらに深めた。アトウッドの小説の舞台となっているトロントの名所や博物館、大学の施設などを見学し、アトウッド文学のバックグラウンドについて、見聞を広めた。その成果を持ち帰り、カナダ的文学性の確立とその特性、地球環境保

護、文明の未来へのグローバルヴィジョンといったテーマと関連させながら、それぞれの領域の研究の広がりや深化を目指し、研鑽を重ねた。

研究代表者は、アトウッドの難解な長編小説のなかで、『キャッツ・アイ』『またの名をグレイス』『昏き眼の暗殺者』『侍女の物語』『オリクスとクレイク』を代表作として選び、さらに評論集『負債と報い 豊かさの影』を加え、カナダの文化的自立というローカルな課題から出発し、現代世界が直面している難問 環境問題へとテーマを広げて行った作家の軌跡をたどった。その成果として、『マーガレット・アトウッドの軌跡 カナダの文化的自立からグローバルな環境問題へ』という論文を長崎大学に提出し、2013年9月博士号(学術)を取得することができた。

ショートフィクションを主軸にアトウッド文学を担当した研究分担者の中島恵子は、ポストモダンなメタフィクション分析において、特に、これまで研究してきたヴァージニア・ウルフの作品と比較検討することにより、博士論文『ヴァージニア・ウルフとマーガレット・アトウッドの創造空間 フィクションの構造と語りの技法』をまとめ、学位(神戸大学:博士、学術、2014年3月)を取得した。

以上のことから、この研究の成果としてまず第一に挙げられるのは、アトウッドの長編小説の分析を通じて、カナダ文学の台頭とともに作家活動を展開したアトウッドのカナダ的特徴を明らかにすることができたことである。『キャッツ・アイ』『昏き眼の暗殺者』『またの名をグレイス』では、カナダの歴史的、文化的、経済的な発展が描かれていることを分析した。ハーバード大学の大学院で、ヴィクトリア朝文学とアメリカ文学を専攻したアトウッドは、卒業後この分野についてジョージ・ウィリアムズ大学で教鞭を取った経歴を持つ。そのような作家の知識と教養が十分に生かされたといえる19世紀を舞台にした『またの名をグレイス』の作品分析において、ヴィクトリアニズムの植民地カナダへの影響を跡付け、その伝播について理解を深めることができた。『侍女の物語』では、アメリカ文学への造詣の深さがその価値を不動のものにしていることを跡付けた。

第二には、カナダという国の文化のローカルな特色を描いた後、アトウッドは遺伝子操作や環境問題という現代文明の抱えるグローバルな難問に取り組んだが、そのアプローチを明らかにすることができたことである。

森林昆虫学者であった父親に連れられて、幼少期はカナダ北部の自然の中で過ごすという作家の特異な経験から生まれた、地球環境の保護に対する切実な思いが、後期の作品に結実している。自己の実験と観察をもとに、殺虫剤の害を説いた父親のカールは、レイチェル・カーソンと同様に、環境保護を唱えるパイオニアの一人であった。科学者としての

父親の視点は、『オリクスとクレイク』などの「マッドアダム三部作」や、評論集『負債と報い』に大きな影響を及ぼしている。そして、グローバルなヴィジョンを提示することで、アトウッドは自らの文学を人類のサバイバルにとってかけがえのない物語群として結実させている。

さらに、短編小説の分析を通して、作品の小宇宙で展開する、人類や野生生物また地球外生物などあらゆる生命体が織りなすプロットが、現在私たちが直面している地球の環境問題、過去から現代へとつながる人類の創造力とファンタジーへと密接に結びついていく点に着目し考察することができた。

結論として、この基盤研究によって、マーガレット・アトウッドの広大な文学世界にいささかでも迫ることができ、その解明を目的として始めた研究の成果を上げることができたと言える。

研究期間中の図書の出版は3点、翻訳書出版3点、論文の出版は7点で、学会発表は8回行った。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### [雑誌論文](計 7件)

中島恵子、マーガレット・アトウッドの語りの技法 - メタフィクションとしての短編小説、カナダ文学研究、査読有、第20号、2012、89 - 104

松田雅子、『またの名をグレイス』を読む - 植民地の抑圧から希望を求めて、カナダ文学研究、査読有、第20号、2012、117 - 130

中島恵子、ヴァージニア・ウルフのショートフィクション、大阪成蹊大学研究紀要、査読有、第10巻1号、2013、149 - 158

松田雅子、マーガレット・アトウッド『またの名をグレイス』 - 犠牲者の立場を乗り越えて行く希望を掲げる、Proceedings of the 85<sup>th</sup> General Meeting of the English Literary Society of Japan、査読有、第8巻、2013、250 - 251

Masako Matsuda and Quin Xin, Margaret Atwood's Speculative Novel *Oryx and Crake*: Problems of Bio-engineering in a Future Society, The 16<sup>th</sup> International Symposium of Geospatial Information Science and Urban Planning, vol.16, 2014, 187 - 193

中島恵子、ヴァージニア・ウルフとマーガレット・アトウッドのレトリック、大阪成蹊大学紀要、査読有、第1号、2015、1 - 16

Keiko Nakajima, Margaret Atwood's Short Fictions: Hybridity Pieces in a Mini-Candy Box, 大阪成蹊大学紀要、査

読有、第2号、2016、1 - 7

#### [学会発表](計 8件)

中島恵子、マーガレット・アトウッドの語りの技法 - メタフィクションとしての短編小説、シンポジウムパネリスト、日本カナダ文学会30周年記念研究大会、明治大学、2012

松田雅子、マーガレット・アトウッドの文学を読み解く、シンポジウムディスカッション、日本カナダ文学会30周年記念研究大会、明治大学、2012

松田雅子、『またの名をグレイス』を読む - 植民地の抑圧から希望を求めて、日本英文学会九州支部第65回大会、九州産業大学、2012

中島恵子、ヴァージニア・ウルフとマーガレット・アトウッドの短編小説 - 実験的技法の模索とメタフィクション的構造、日本英文学会関西支部第7回大会、京都大学、2012

松田雅子、『オリクスとクレイク』における遺伝子操作の問題、日本カナダ文学会第31回年次研究大会、北海道武蔵女子短期大学、2013

Michele Ruhl, Metaphors that Move Us: Moving between Imagination and Reality, The 6<sup>th</sup> Tamkang International Conference on Ecological Discourse, Tamkang University, Taiwan, 2013

Masako Matsuda and Quin Xin, Margaret Atwood's Speculative Novel *Oryx and Crake*: Problems of Bio-engineering in a Future Society, the 16<sup>th</sup> International Symposium of Geospatial Information Science and Urban Planning, Nagasaki University, 2014

中島恵子、マーガレット・アトウッドの短編小説 - ミニ・キャンディボックスの中の小宇宙とメタフィクショナルでハイブリッドなレトリック、シンポジウムパネリスト、日本カナダ文学会第33回年次研究大会、山梨大学、2015

#### (参考)

西村美保『『またの名をグレイス』におけるヴィクトリアニズム：ファッション、偽善、セクシュアリティ』日本カナダ文学会第34回年次研究大会、福岡工業大学、2016年6月

#### [図書](計 6件)

中島恵子訳、英光社、死者との交渉 - 作家と著作、2011、240

松田雅子 他、開文社、英文学を読み解く、2012、693

中島恵子、ヴァージニア・ウルフとマーガレット・アトウッドの創造空間 - フィクションの構造と語りの技法、英光社、2015、264

中島恵子 他、大阪教育図書、文藝禮讃  
- アイデアとロゴス、2016、942  
中島恵子 他訳、ケンブリッジ大学カナ  
ダ文学史、大阪教育図書、2015、800  
松田雅子 他訳、開文社、キャッツ・ア  
イ、2016 刊行予定、576

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

なし

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

なし

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松田雅子 (MATSUDA, Masako)

岡山県立大学・情報工学部・教授

研究者番号: 9 0 2 4 9 6 6 5

(2) 研究分担者

1) 中島恵子 (NAKAJIMA, Keiko)

大阪成蹊大学・マネジメント学部・教授

研究者番号: 2 0 1 8 8 9 4 9

2) 西村美保 (NISHIMURA, Miho)

福岡教育大学・教育学部・准教授

研究者番号: 6 0 2 8 4 4 5 2

3) ミシェル・ルール (RUHL, Michele)

長崎大学・言語教育研究センター・講師

研究者番号: 2 0 3 4 6 9 4 3

(3) 連携研究者

なし( )

研究者番号: